

1. 日時

2020年8月12日（水） 19:00～21:00

2. 場所

Zoom（Web会議システム）

3. 出席者

（敬称略順不同）

近藤、中村、小倉、川島、大橋、金田、鳥本、竹川、高橋、藤重、濱井、森山、清水、
諏方、山本、河村、鈴木（記）以上17名

4. 議題

- （1） 活動の概要説明
- （2） 離島ワーケーションを題材としたBAO活動の研究
- （3） その他連絡・相談事項など

5. 議事

- （1） 活動の概要説明

今回、新規参加の方が2名、オブザーバ参加頂いたIIBA理事の方が6名見えたので、昨年までの活動と、本年度のテーマについて近藤座長から説明。

- （2） 離島ワーケーションを題材としたBAO活動の研究

前回WEBに公開されているワーケーション事例から、参加者コメントを纏めた資料を作成したが、それをベースに、近藤座長がCLDの雛形を作成した。CLDを肉付けしてゆくため、目的変数をどう設定するのか、効果測定は何を使用するのが議題となった。

何が満足感なのかは利用者によって異なる。利用者呼びやすいような目的変数にするのか、佐久島が呼びたいと考える利用者を狙った目的変数にするのか。今回の活動はBAOツールの発見なので、BA活動の主体である佐久島振興課が目的とするものを仮定し、それに向けたBA活動の支援ツールを検討する必要がある。ひとまず

人口減少が佐久島の課題と仮定してはどうか。人口増加のための仕掛けとしてワーケーションを位置付け、目的変数を設定する。課題は実際には異なる可能性もある。やはり現場調査で裏付けをとる必要がある。

島のビジネスモデルは何？

漁業、観光業だが、漁業は本格的な産業ではなく、観光業も若者の日帰りが中心。クラインガルテンで農業定住者を募集しているが、人口増を目的とするなら、就業できるビジネスが必要。ワーケーションは期間によって一二泊、週単位、長期などが考えられるが、人口増を目的とするなら長期滞在志向とし、いずれ企業誘致に繋げるという考えもある。まずは一見、リピータ、アドボケータなどに分けて作成したCLDの詳細化を進め、最終的には定量モデルまで落としたい。

効果測定方法も課題

佐久島でワーケーションをする魅力は何か。新鮮な魚介、島の自然、島民の人柄、伝統的祭礼、コンビニがない不便さ、そういったものが実は魅力だが、どうやって数値化するのか。様々提案が出たが、NPS（ネットプロモータスコア）が有力案となった。NPSをパラメータとして、CLDを回し、改善ポイントを見出す、というサイクルを回す。これを定量化モデルに落とし込む。

まずは仮説をベースに作成してもよいが、佐久島に行って情報収集するのが具体化しやすいと思われる。

(3) その他連絡・相談事項など

- ・今回参加いただいたIIBA理事の方々、新規参加された方からの感想

地域に密接なテーマ、現実感ある題材、レベルの高さ、チームになっている、楽しい雰囲気、ワクワク感、全国から参加できてよい、他地域とも連携できそう、など、大変好意的な感想を頂けた。

6. 次回予定

(1) 日程

第94回 9月度日程は別途調整後展開させていただきます。

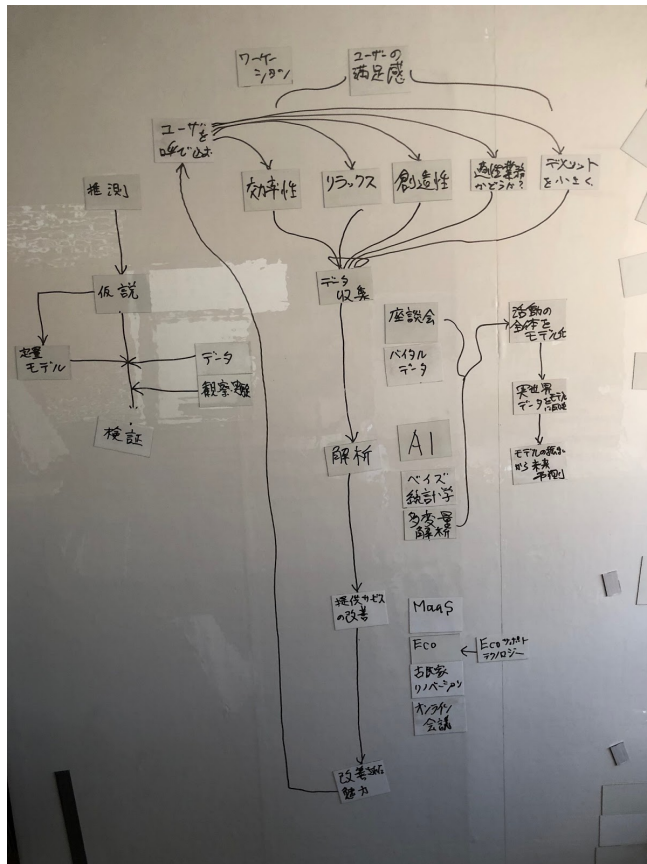
(2) 場所

ZOOM（Web会議システム）予定

(3) 議事予定

モデルの詳細化検討

7. 成果物

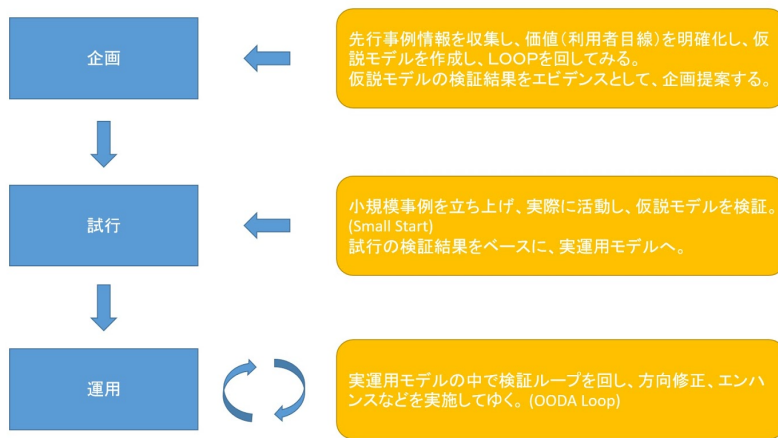


データ活用時代の ビジネスアナリシス

目的変数

説明変数





<https://drive.google.com/open?id=1DqsROwZq48xyms73BdYRs1lhkuAfT-eO>

8. その他

特になし

—以上—